

城郭温泉で、“あぁ、ビバ・ノンノン”

長野県にある諏訪教育博物館で「中世の山城の世界」展が開催されているということで見学に行きました。写真にあるように、長野県内の中世山城の絵が数多く展示されていました。作者は宮坂武雄氏。『ラパン』でも紹介されていました。宮坂氏は山城遺跡を踏査して、その縄張りの見取り図を描いて記録を残され、さらに、その縄張り図から山城の姿を鳥瞰図に描き起こしています。その作業過程も一部紹介されていました。綺麗に彩色された鳥瞰図をいくつも並べると見ごたえがあります。展示のあり方は中学校の文化祭のように手作りですが、宮坂氏の熱意は十分伝わってくるものでした。

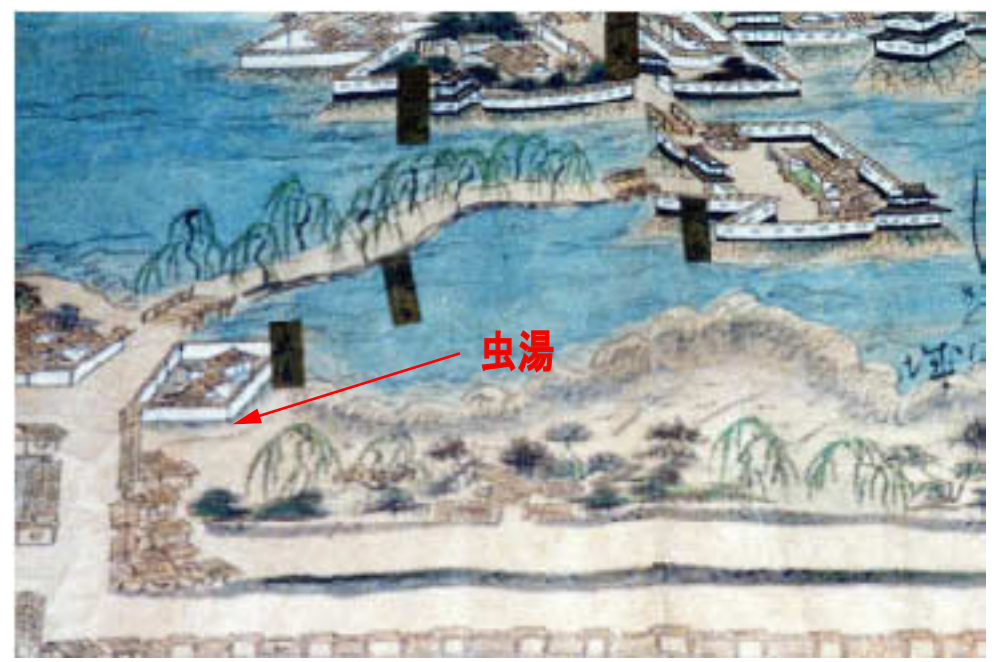


せっかく諏訪まで来たので、高島城に足を伸ばします。この城は諏訪氏の居城で、かつては諏訪湖畔に浮かぶ水城でしたが、いまでは完全に陸化しています。慶応4年の城下町図でもすでに城は田に囲まれていて、水城としての景観は失われつつあったようです。

さて、高島城跡は現在、公園となっていて、天守台には復興天守がそびえています。内部は高島藩に関わる歴史資料が展示されていますが、城そのものに関する解説はありません。

天守に入場する前に、石垣の階段下に無造作に置かれている石造物に気づきますこれには簡単な説明があって、城内に温泉を引くための導水施設の石柵だということがわかります。

天守最上階にはガラスケースが置かれていて、その中に写真のような木製品が、ほかの展示物の下敷きになっています。手書きの説明には、城内より出土した温泉の導水管だということが書かれています。ということは、石柵の穴にはこうした木製管が挿入され、源泉から引かれた温泉がこうした設備によって城内に引き入れられていたということ（ケース内に図示あり）、城下町遺跡などで出土する上水道に近似しています。



植村佐『諏訪高島城』（日本城郭協会、1970）によると、源泉から三之丸に温泉が導水されていたらしい。三之丸は姫路城でいうところの向屋敷に相当する施設、すなわち迎賓館的な御殿があった曲輪というから、藩主在国中は「湯に浸かってのんびり」したり、客人にも入湯してもらったのでしょう。浅川清栄編『図説高島城と諏訪の城』（郷土出版社、1995）によると、武士達もここで入湯したらしく、現在では「三之丸温泉」という共同浴場があるとのことです。『姫路日記』を見ると、家中の武士が湯治の願いをしばしば役所にだしていることがわかります（『城郭研究室年報』10、2001）。姫路では有馬や城崎ですが、諏訪家中では城内に温泉があるわけですから、体調不良の際にはよく利用されたのかも知れません。

また、三之丸以外にも温泉がありました。高島城は城下町とは大手筋に相当する縄手によって結ばれていました。縄手が城下町に取りつくところにあったのが「虫湯」です。その名称から察せられるように蒸し風呂で、硫黄分の強い温泉だったようです。この湯に入ってから菩提寺に参詣した藩主もいたとのことです（浅川前掲書）。在府中に体調を崩した藩主が、「早く暇をいただいて諏訪の湯に浸かりたい」と思ったこともあったのではないのでしょうか。

温泉地や源泉に近い城では、高島城のように温泉を利用することがあったのか、あったとすればどう利用したのでしょうか。城郭内にあって家中の利用も可能なリラクゼーション施設というのも調べたら面白いかもしれません。

余談ですが、高島城天守には右のような工具が展示してあります。高島城修復の際に使われた工具で、石材の加工調整に使用されていたものようです。

高島城では軟弱地盤上に築城したために、江戸時代に何度も補修工事が行われました。天守を釣り上げて、天守台石垣を積み直した工事は有名です。

これらは石垣補修にあたり、積み石の調整などに使われたのでしよう。錠のひとは相当使い込んでいることが看取できます（写真右上のもの）。



姫路城の大手門前に「イーグレひめじ」という再開発ビルができました。この施設の最大の売りは、屋上庭園からの姫路城の眺望です。姫山と鷲山に築かれた曲輪群と建物の展開、その向こうに連なる広峰の山が絶景となっています。さて、そんなビルの中にテナントとして「スパ」つまり温泉があります。地下深くボーリングをしたところ「温泉」がでたということのようです（もちろん、冷泉ですが）。当然、売りは「姫路城が見える」ということになっています（未確認）。

このビルは酒井家時代、藩校などのあった土地に建てられていて、武家地の中でも一等地といえる場所にあたります。ですから、広い意味で現代のお城の中の温泉といえるかもしれません。城とは歴史的に無関係ですが、城周辺にはこうした新しい施設もできていますので、姫路城に来られた方は、ぜひ一度利用してみてください。



"Shiro Fumi" No.31 The News of Himeji Center for Research into Castles and Fortifications.